

<b>事業所名</b>	<b>グループホームいやしの家備前2</b> (クリックすると事業者の情報にリンクします)
<b>日付</b>	平成18年10月31日
<b>評価機関名</b>	<b>㈲東京リーガルマインド</b> (クリックすると評価機関の情報にリンクします)
<b>評価調査員</b>	A:現職 デイサービスセンター管理者 資格・経験 介護福祉士、介護支援専門員、福祉住環境コーディネーター、音楽療法士 B:現職 障害者自立支援調査員 資格・経験 介護福祉士、介護支援専門員
<b>自主評価結果を見る</b>	(事業者の自主評価結果にリンクします)
<b>評価項目の内容を見る</b>	(評価項目にリンクします)
<b>事業者のコメントを見る(改善状況のコメントがあります!)</b>	(事業者情報のうち評価結果に対する事業者コメントにリンクします)

#### I 運営理念

番号	項目	できている	要改善
1	理念の具体化、実現及び共有		
<b>記述項目</b>	<b>グループホームとしてめざしているものは何か(記述)</b>		
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・基本的な人権の保護、生きがいのある生活を目指している。何より、老後を心穏やかに過ごしていただきたい。その為には、周りの人に気を使わず、自分の家に住んでいた時のように、その人らしく生活してほしいと考えている。明るくて楽しいホーム、職員が「自分の親もここに住ませたい。」と思えるような「温かい家庭的な場所」を目指している。</li> <li>・ホームの近隣だけでなく、入居者の近所の人や親類などが気軽に遊びに来られる地域の「井戸端」的な存在にしたいと考え、地域との交わりによって入居者の生活の拡充をし、人の輪を広げていくことに努めている。</li> <li>・入居者の身体機能の維持をして生き生きとした生活を保持し、笑いの絶えない日々を続けていただけるよう努めている。</li> <li>・大きな楽しみであり、大切にしている「おいしい食事」は栄養価もさることながら、食材にも気を配っている。色々な希望にも応えるようにしており、健康な体と精神作りで寄与している。</li> </ul>		

番号	項目	できている	要改善
2	入居者一人ひとりに合わせた居室の空間づくり		
3	建物の外回りや空間の活用		
4	場所間違い等の防止策		
5	入居者が落ち着いて生活できるような場づくりとして取り組んでいるものは何か(記述)		
<b>記述項目</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・玄関ポーチには、椅子が並べられている。好きな時に出て外気浴をしたり、おしゃべりをしたり、散歩や畑への行き帰りに一休みするなど、ちょっとした憩いの場所となっている。居間にある畳のコーナーの窓が前面ガラス張りのため、キッチンや居間、畳のコーナーからも玄関ポーチや庭が見渡せるようになっており、とても開放的である。また、職員の目も行き届くので安心でもある。</li> <li>・居間やキッチン、畳のコーナーなどの共用スペースをぐるりと回ると回廊式に各居室がある。どの部屋からも備前の町並みや山が見渡せて、とても落ち着ける。それぞれ、その人らしい部屋作りがなされていて、清潔感がある。</li> <li>・職員の優しい見守りの中で自由に行動でき、自分を出して生活できる満足感が入居者の表情に表れている。</li> <li>・法人代表者の家族や職員が一体となって入居者の支援をしながら作っている畑は、手入れが行き届いていて清々しい。毎日、畑の作物を眺め、土に触れることが、どれほど入居者の気持ちの支えとなっていることだろう。</li> </ul>		

#### III ケアサービス

番号	項目	できている	要改善
6	介護計画への入居者・家族の意見の反映		
7	個別の記録		
8	確実な申し送り・情報伝達		
9	チームケアのための会議		
10	入居者一人ひとりの尊重		
11	職員の穏やかな態度と入居者が感情表現できる働きかけ		
12	入居者のペースの尊重		
13	入居者の自己決定や希望の表出への支援		
14	一人でできることへの配慮		
15	入居者一人ひとりにあわせた調理方法・盛り付けの工夫		
16	食事を楽しむことのできる支援		

#### 外部評価の結果

講評
全体を通して特に良いと思われる点など(記述)
<ul style="list-style-type: none"> <li>・赤穂線伊部駅に降り立つと、あちこちに釜焼きの煙突が立っているのが見える。コスモスが秋風に揺れて、どこからか木屑の香りが漂ってくる。そんな焼き物の町の一角に、「グループホームいやしの家備前2」はある。駅から歩いて5分位の所に位置し、交通の利便性も良く、近くに大型スーパーや小学校、警察署などがある。</li> <li>・鉄骨平屋造りの和風建築で、2ユニットの真ん中に玄関ポーチがあり、緩やかな傾斜のスロープが続いている。庭はとて広く、一角には丹精込めた作物や草花が植えられた畑がある。玄関脇にはヘデラ(ツタ類)が植え込まれ、緑がみずみずしい。</li> <li>・入居者の大半の方、法人の代表者、管理者、また、職員のほとんどが地元出身であり、「馴染みのある人達に見守られて生活をする」という地域密着型の理想に近い形のホームである。近所の方が気軽にお茶を飲みに来ち寄られるなど、開放的で心やすい庶民的な雰囲気がある。</li> <li>・「食事の楽しみ」は、このホームの大きな長所である。法人代表者が特に力を入れており、代表者の家族の協力もあり、新鮮な食材で豊かな食卓が演出されている。入居者の健康な体と健康な笑顔に大いに寄与している。</li> <li>・入居者の心身の機能レベルが同じくらいであるので、会話や移動が一緒にでき行動が拡がりやすいため、コロコロとよく笑い、よくおしゃべりをし、共同の生活を楽しくしている。</li> </ul>
特に改善の余地があると思われる点(記述)
<ul style="list-style-type: none"> <li>・医療とのより密接な連携に向け、今後は訪問看護が予定されている。いつでも相談でき、訪問してくれる医療との連携は、入居者や家族のみならず、職員にも大きな安心感とゆとりをもたらす事だと思う。</li> <li>・家族や地域との運営推進会など、より積極的な交流に取り組んでいかれるとのことで、益々地域に開かれたホーム作りに期待したい。</li> <li>・個々の方の生活歴等アセスメントを綿密にすることによって、一人ひとりへの理解を深め、具体的な介護計画に反映していくなど、書式の工夫をされる予定とのこと。</li> </ul>

#### III ケアサービス(つづき)

番号	項目	できている	要改善
17	排泄パターンに応じた個別の排泄支援		
18	排泄時の不安や羞恥心等への配慮		
19	入居者一人ひとりの入浴可否の見極めと希望にあわせて入浴支援		
20	プライドを大切にされた整容の支援		
21	安眠の支援		
22	金銭管理と買い物の支援		
23	認知症の人の受診に理解と配慮のある医療機関・入院受け入れ医療機関の確保		
24	身体機能の維持		
25	トラブルへの対応		
26	口腔内の清潔保持		
27	身体状態の変化や異常の早期発見・対応		
28	服薬の支援		
29	ホームに閉じこもらない生活の支援		
30	家族の訪問支援		
<b>記述項目</b>	<b>一人ひとりの力と経験の尊重やプライバシー保護のため取り組んでいるものは何か(記述)</b>		
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・入居者夫々が、誰にも束縛されず、自由に過ごしていただく中で、洗濯物を干したり、たたんだり、掃除をしたり、食器を洗ったり、拭いたり等、したい事や出来る事を楽しみながらしていただき、満足感が持てるように支援している。</li> <li>・入居者は、昼間はほとんど居室には帰らず、皆さんと一緒に行動されることが多い。居室で過ごすプライベートな時間は大切に、できるだけ干渉しないようになっている。</li> <li>・農業をされていた人が多いこともあって、ホームに庭にある畑作りは入居者の大きな楽しみである。法人代表者の家族や職員が一体となって入居者の畑作りを支援している。</li> <li>・幸いにも入居者全員が機能レベルが同じくらいで、何とか押し車で歩行できる状況でもあり、毎月その季節ならではの花の名所などに出かけ、自然のリラゼーションを満喫しながら、戸外の色々な状況の場所を体験して機能維持を図っている。</li> </ul>		

#### IV 運営体制

番号	項目	できている	要改善
31	責任者の協働と職員の意見の反映		
32	家族の意見や要望を引き出す働きかけ		
33	家族への日常の様子に関する情報提供		
34	地域との連携と交流促進		
35	ホーム機能の地域への還元		
<b>記述項目</b>	<b>サービスの質の向上に向け日頃から、また、問題発生を契機として、努力しているものは何か(記述)</b>		
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・職員の質の確保は、頑張っている職員からの紹介や、知人の推薦など信頼できる人を雇用するようにしている。管理者は、職員夫婦の良さが毎日のケアに反映されるように働きかけている。</li> <li>・入居者の個人記録は、昼間・夜勤帯とも詳細に記録できており、状況が把握できる。インシデントレポートでは、事故の報告はされているが、再発防止に向けての検討や周知・徹底ができるよう取り組まれる考えである。</li> <li>・地域の中にすっかり溶け込んでいる感のあるホームであるが、今後は、町内会の方・民生委員・地域包括支援センター等々への働きかけをしていき、しっかりと運営推進会議づくりに取り組んでいかれるとのこと。</li> <li>・毎月、家族へ手紙や写真などを送っているが、ホームでの暮らしぶりや行事で出かけたことなどを「便り」として年に1、2回からでも発行を始めたいと考えている。</li> <li>・「いやしの家」として、岡山市と備前市に三箇所のグループホームを展開している。お互いのホームの情報交換や勉強会を持ち、研鑽を重ねながらサービスの質の向上に努めている。</li> </ul>		